

入間川流域緊急治水対策プロジェクト【中間とりまとめ】（案）

～地域が連携し、多重防御治水により、社会経済被害の最小化を目指す～

川越市 東松山市 坂戸市 川島町 埼玉県 気象庁熊谷地方气象台 荒川上流河川事務所

令和元年台風第19号において甚大な被害が発生した荒川水系入間川流域における今後の治水対策の方向性として、関係機関が連携し「**入間川流域緊急治水対策プロジェクト【中間とりまとめ】**」をとりまとめました。引き続き、具体化に向けた検討を行ってまいります。

① 多重防御治水の推進（関東流治水システムの踏襲）

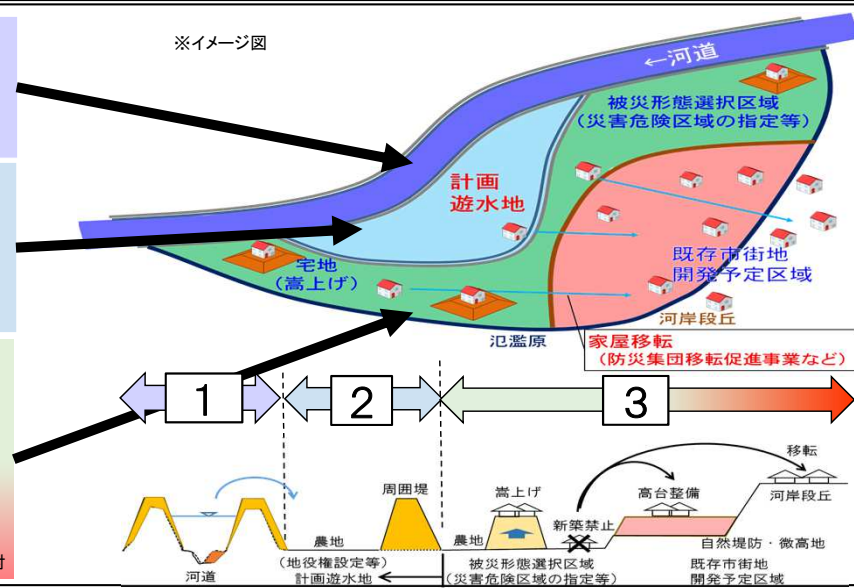
【参考】『多重防御治水』とは
地域と連携し、

- ① 河道の流下能力の向上による、あふれさせない対策
 - ② 遊水機能の確保・向上による、計画的に流域にためる対策
 - ③ 土地利用・住まい方の工夫による、家屋浸水を発生させない対策
- が三位一体となって社会経済被害の最小化を目指す治水対策



河道	三位一体の対策	1	河道 の流下能力の向上 ○河道内の土砂掘削、樹木伐採による 水位低減 ○堤防整備（掘削土を活用）
		2	遊水機能 の確保・向上 ○地形や現状の土地利用等を考慮した 遊水地の整備 ※外水（国管理河川・県管理河川など）、内水の両方に対応する遊水地（仮称） ハイブリッド型遊水地 を検討
		3	土地利用・住まい方 の工夫 ○浸水が想定される区域の 土地利用制限 （災害危険区域の設定等） ○ 家屋移転 、住宅の嵩上げ（防災集団移転促進事業等） ○高台整備（避難場所等に活用） ○土地利用に応じた内水対策の検討

※各地域の特性に合わせてメニューを検討



② 減災に向けた更なる取組の推進

<課題> 同時多発的な被害発生により、情報が膨大となり、状況把握・情報伝達・避難行動が円滑に進まない

→ <今後の方向性> 関係機関等が連携し、円滑な水防・避難行動のための体制等の充実化を図る

<主な取組メニュー>

- 重要度に応じた情報の伝達方法の選択及び防災情報の共有化のための取組
 - 自治体との光ケーブル接続
 - 危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置
 - 氾濫を監視する機器の開発・整備
- 関係機関が連携した水害に対する事前準備のための取組
 - タイムラインの改善
 - 講習会等によるマイ・タイムライン普及促進
 - 緊急排水作業の準備計画策定と訓練実施
 - 他機関・民間施設を含めた避難場所の確保
 - 広域避難計画の検討



入間川流域における浸水被害状況